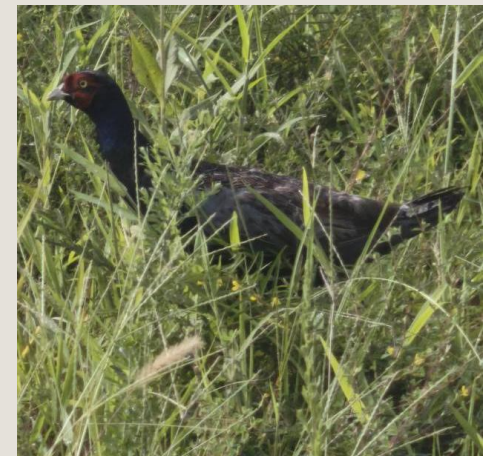


ANEC事業報告会 核燃料サイクル実習の 経験を通じて

東京都市大学 理工学部 原子力安全工学科
放射線応用工学研究室 学部3年
五十嵐 大智(Daichi Igarashi)

核燃料サイクル実習の概要

- 実習期間: 2025年08月27日(火)－08月30日(金)
フォローアップ 2025年10月02日(水)
- 実習場所: JAEA Tokai Mirai Base(講義、宿泊)、
JAEA 核燃料サイクル工学研究所(講義、実習)
- 実習内容:
 - 1日目 移動、ガイダンス、核燃料サイクル概論
 - 2日目 廃棄物処理処分、専門実習(燃料特性)
 - 3日目 専門実習(燃料特性)、施設見学
 - 4日目 GB作業実習、施設見学、移動



↑実習2日目の
移動中に見かけた
野生の雉(キジ)



ANEC事業で特に役に立ったこと①

—本物を間近で見た経験—

- 大学では扱う機会のない核物質を実際に見学
 - U・Puなどの核物質を直接見ることで、核物質管理の厳格さを実感できた。
- 座学知識が現実と結びついた
 - 教科書で学んでいた内容を、現場の設備・運用と結び付けて理解できた。

ANEC事業で特に役に立ったこと②

—体験型実習の教育効果—

- グローブボックス作業を実体験できた
 - 手袋破損を想定した作業を通じて、安全管理の重要性を体感的に理解できた。

- 燃料ペレットを比較する機会が得られた
 - 炉型ごとの違いを大きさ・形状の観点から直感的に理解できた。



結論と今後への提言(ポストANECへ)

- 結論: ANEC事業は高い教育的価値を持つ
 - 大学の講義では補いきれない
現場理解・職業意識の醸成につながっている
- 提言: **低学年での実施もより効果的と考えられる**
 - 本実習は基礎的・包括的な内容である。
 - 学部1・2年次での体験により、
その後の専門科目の理解や進路意識が深まる。